



園だより

令和5年5月 26日
佛教大学附属こども園

「仏教保育 6月のねらい」
生命尊重

「梅雨」

園長 佐藤和順

附属こども園の周りの木々も緑を増し、園庭の雑草も雨が降るたびに根強く伸びているように感じます。6月といえば「梅雨」。私たち大人はあまり良いイメージを持ってないかもしれませんが、子どもにとっては、「梅雨」も楽しい経験や発見ができる季節です。雨の音や匂いを感じたり、雨上がりの水たまりを海や池に見立てたり、ダムや川を作ったり、泥団子を作ったりとどのような環境でも子どもの手にかかれば楽しい遊びに発展していきます。入園・進級して2ヶ月が経ち、園児たちも園生活に慣れ、雨が降らなければ外で、雨が降っていれば室内で元気いっぱい活動しています。

さて今月の保育目標は「生命尊重（せいめいそんちょう）生きものを大切にしよう」です。自分の生命を大切にすることと同様に、他の人間および人間以外のすべての生物の生命を大切にすることは、幼児の情操に大きな影響を及ぼすことです。各自で充分心がけたいものです。

こども園移行の際に、園庭に新しく数本の樹を植えました。園庭が自然豊かで、子どもの育ちにとって重要な役割を果たすと考えてのことです。5歳児もプランターにいろいろな野菜を植え、栽培しています。子どもは、当番で水やりを行い、作物の生長を楽しみにしています。

また、園庭の隅では、だんご虫やアリ、いろいろな虫を探している子どもの姿が見られます。捕まえた虫は観察ケースに入れ、図鑑で調べたり、飼い方はどうすれば良いのか自分たちが知っている知恵を出し合ったりしています。時には、力が入りすぎ、潰してしまうこともあるかもしれませんが。そのような事を経験しながら手加減すること、力加減を学んでいくのです。

このように子どもはいろいろな遊びや生活、動植物の飼育栽培を通して、小さな人間以外の生き物の生命に出会い触れ合い、不思議さを感じ、他者へのいたわりの心や思いやりの心を育てていきます。

「生命尊重」は難しく大きなテーマです。まず身の回りのものを大切にすることからはじめたいと思います。毎日の食事の中で、大切な生命をいただいていること、“もったいない”について家族で話すことから始めてみてください。子どもが生命の大切さ尊さを知り、情操豊かな子に育ってくれることを願っています。

